

【稲城市】 校務 DX 計画

令和6年度に実施した「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリスト」において、稲城市の自己点検結果は、学校設置者向けの点検では 600 点満点中 330 点(東京都平均 333.4 点)、学校向けの点検では 990 点満点中 489.6 点(東京都平均 434.5)となり、東京都平均と同等以上の結果となっています。

この自己点検の結果を踏まえ、稲城市では以下の取組や検討を行い、校務 DX を進めていきます。

1 教職員と保護者間の連絡のデジタル化

教員と保護者間の連絡のデジタル化については、児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡や保護者への調査・アンケート等におけるクラウドサービスの利用においては、活用が進んでいる結果となりました。一方で、配布物の一斉配信や保護者との日程調整におけるクラウドサービスの利用においては、活用が進んでいない結果となりました。しかし、配布物の一斉配信については、稲城市立小中学校保護者連絡アプリの運用を令和6年度2学期より開始しており、運用開始間もないことから活用が進んでいない結果となったと考えられます。

今後は、クラウドサービスで対応可能かどうかの検討を行い、クラウドサービスの活用を更に進めることで改善を図っていきます。

2 教職員と児童生徒間の連絡等のデジタル化

教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化については、学習者用端末を毎日持ち帰り家庭で利用できるようにすることや、児童生徒への各種連絡のクラウドサービスを用いた配信においては活用が進んでいる結果となりました。これは、稲城市では学習者用端末としてセルラーモデルの端末を配備し、モバイル通信を基盤とした持ち帰り学習に力をいれていることが要因として挙げられます。

しかし、授業におけるCBT(Computer Based Testing)の活用が進んでいない結果となり、今後はMEXBIT(メクビット:文部科学省CBTシステム)等の活用を検討する必要があります。

3 学校内の連絡のデジタル化

学校内の連絡のデジタル化については、職員会議等の資料のペーパーレス化、教職員間の情報共有や連絡、教職員への調査・アンケート等の実施集計、及び事務手続き資料の受付等において、クラウドサービスの活用が進んでいる結果となりました。一方で、授業研究会や校内研修

等をハイブリッド(対面・オンライン)で行っているかどうかについて、「全くしていない」「一部している(半分未満)」が8割を占めた結果となりました。今後は、クラウドサービスのより一層の活用をすすめるとともに、授業研究会等の実施について必要に応じてハイブリッド形式で行う等検討する必要があります。

4 その他

FAXの利用や押印が必要な書類の有無について、稲城市の自己点検の結果においては「FAXを利用している」「押印が必要な書類がある」などが目立つ結果となりました。これらの改善に当たっては、やり取りを行う相手方の協力を得る必要がある等の課題があることから、まずは教育委員会と学校の間でのやり取りについて見直しを行う必要があります。

また、令和6年度からパブリッククラウド上で運用を行う校務支援システムを導入しており、学齢簿情報を校務支援システムに取り込むことで手入力作業を減少させる等の取組により校務負担の軽減に繋がっています。導入間もない校務支援システムの様々な機能を十分に活用することで、より一層の校務DXを図ることができ、校務負担を軽減することができます。今後は次世代の校務支援システムとしての運用に円滑に移行できるよう、校務系ネットワークシステムの現状分析や、望ましい校務の在り方に関する検討を進めます。